



今週号は一面だけです。  
23日付本紙は休刊で、次  
号は30日付となります。

## なぜ教訓が生きない市役所なのか 修理失敗でも全額支払い 市民提言で半額戻る

北コミュニティセンターの和室のエアコンが故障して以来、半年かかって直った。1月12日に故障し、使用可能になったのは6月26日。この間冬場は暖房は使えず、5月に30度を越える日があっても冷房は使えない。市民ファーストじゃない。

利用している市民(Aさん)が、なぜいつまでも直らないのかと、担当の教育委員会から情報公開で資料を得た結果、驚くべきことがわかった。

壊れた後すぐに業者の見積もりを取ったのはいいが、部品交換工事で35万円とのこと、予算がなく新年度予算まで待つしかなかった。ただ、予算がなくても市民の利益を優先して予備費等から流用すべきだが、そのような勇気を持つ

市役所そばの市民の森ではいまヤマユリが見事です(9日撮影)。市役所に行ったついでにひととき散策されてはいかがでしょう。



た職員はいなかったらしい。

しかし、今年度になって修理をしたが直らなかった。そのため、交換工事に切り替えて和室貸し出しを1週間中止し、工事を行った。

問題は30年以上使用し、交換部品が製造されていないエアコン

を修理しようとしたことだ。しかも修理したが直らなかったにもかかわらず、修理代35万円を全額支払った。

これを担当者だけの判断で行ったのか、管理職や関係者はどう関わったのか。不思議でならない。

### 市民から預かる税だからこそ大切に

なぜそうしたのか。見積書に直らないかもしれないと書いてあったのが支払いの根拠のようだ。しかし、直らないこともある工事を発注されてはたまらない。いくら予算がないと刷り込まれていても、30年も使っているのだからと交換工事に切り替えられないのなら、市民の税を預かり、市民サービスを行う市の職員として失格だ。当然それを認め管理職も同罪。

### 市民がアドバイス

このことを知ったAさんは、「修理見積もりが高すぎるし、直っていないのに全額支払いはおかしい。せめて半額返してもらおうべき」と追求。その結果職員が交渉し業者から半額返してもらったという。税は自分のものではないからといって使い方に無頓着でいいはずはない。

学校エアコン工事であれだけ問

題になったのにその教訓は行きわたっていない。

しかもエアコン工事に詳しいAさんは「工事は2日で終わるはず。実際工事は2日で終わっている。北コミュニティセンターの和室も貸し館事業で、昼間は1時間210円、夕方から夜間は320円の利用料がある。民間の貸し館業者だったら夜間工事を行い、翌日は貸し出し可能にしていだだろう」と市のやり方をきびしく指摘。

その結果、北コミの和室の出入り口に興風図書館長名で以下の謝罪文が張り出された。

「和室をご利用の皆様へ  
市の不手際により、修繕の対応が遅れ、利用者の皆様方には、長期にわたり空調機が使用できず、大変ご不便をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。なお空調機は六月二十六日から使用を開始しております。」